

## 1 研究主題

生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせる学習指導法の研究  
～基礎・基本の定着と学習意欲の向上をめざして～

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 本校の実態から

本校では、平成18・19年度の2年間にわたり、「生徒の学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る指導の工夫～授業の充実、学習環境づくり、家庭・校種間連携を中心として～」をテーマに掲げ、基礎学力の定着に向けて職員研修を展開してきた。主に授業の充実、とりわけ定着ラスト15分や学習サイクル（予習・授業・復習）の定着に重点を置いて研修を行った。

その中で、基礎・基本の定着や学力の向上が見られる教科もあるが、研修の成果がまだ明確には見られない教科もあるため、生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせる学習指導法について、今後一層研修を工夫・改善していかなければならない。

### (2) 生活面から

本年度の生活実態調査から、本校生徒は睡眠や食事、読書、ゲーム時間等については目立った問題はないが、家庭学習時間の不足とテレビ視聴時間の多さが課題として挙げられる。テレビ視聴についてのルールのない家庭が8割に達していることから、見ただけテレビを見た後に学習している無計画な生活の様子がうかがえる。

このような実態から、授業の充実とともに、生活指導及び保護者との連携による家庭学習の習慣化、家庭学習時間の確保も不可欠であるため、生徒一人一人に応じた学習指導法の充実を目指して、本年度の研修を推進していくことにした。

## 3 研究の仮説

仮説1 各教科の特性及び生徒の実態を踏まえて指導内容・方法・形態を工夫し、個に応じた指導や学業指導の充実を図ることにより、生徒は意欲を持って学習に取り組み、確かな学力を身に付けるであろう。

仮説2 学校と家庭が連携し、家庭学習の習慣化や時間確保を目指すことにより、生徒の家庭学習は充実し、確かな学力を身に付けるであろう。

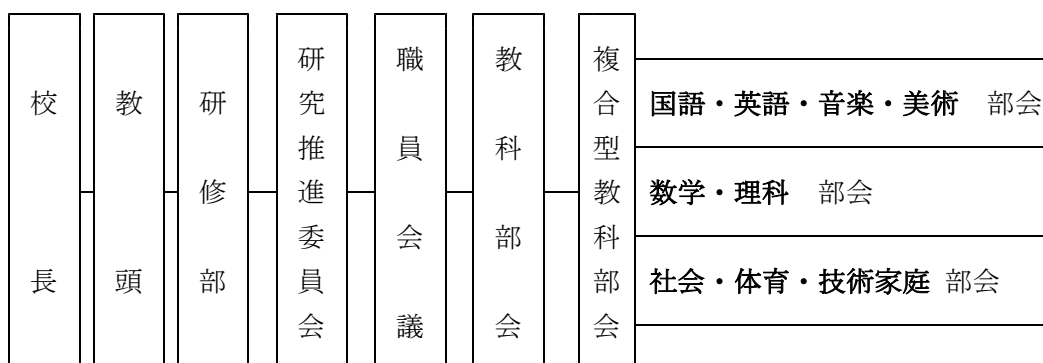
## 4 研究の概要

基礎学力の定着	家庭学習の充実
1 授業の充実	1 家庭学習・生活習慣の実態 把握
2 職員研修の充実	2 家庭学習の習慣化及び時間 確保
	3 保護者との連携

## 5 研究内容

<p>① 授業の充実</p> <p>ア 教科指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導法の工夫・改善（例 思考力・判断力・表現力の向上、ICT活用等）</li> <li>・ 共通実践事項（4項目）の徹底</li> <li>・ 個別・少人数指導の充実</li> </ul> <p>イ 学業指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の心構え徹底</li> <li>・ 学習オリエンテーションの充実</li> <li>・ 朝読書の充実、読書活動推進</li> <li>・ 1分前着席・黙想の徹底</li> <li>・ 学習の手引きの活用</li> </ul> <p>② 職員研修の充実</p> <p>ア 授業研究の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視点の明確化（12項目）</li> <li>・ 支援シートの作成、活用</li> </ul> <p>イ 教科部会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複合型教科部会の設定、活用</li> </ul> <p>③ 家庭学習の充実</p> <p>ア 家庭学習・生活習慣の実態把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月、7月、9月の実態調査</li> </ul> <p>イ 家庭学習の習慣化及び時間確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「生活の記録」の活用</li> </ul> <p>ウ 保護者との連携</p>
--

## 6 研究組織



## 7 年間計画

学期	月	日	曜	研修項目	研修内容	研修方法	担当
	5	2	月	研修計画 研究公開	校内研修計画提案 研究公開に向けてI	提案承認 全体研修	日高 日高

学 期	5	9	月	生徒指導	事例研究【身体面】 生徒理解（不登校・問題傾向）	共通理解	酒井
	5	16	月	学習評価	通知表・評価について	全体研修	湯原花木
	6	21	月	研究授業	研究授業①（講師招聘）	全体研修	今村文
	6	17	金	研究授業	研究授業②（講師招聘）	全体研修	
	6	28	火	市教研連携部会	小中連携研修会	4校合同	
夏 休 み	7	20	水	教育課程	教育課程編成についてⅠ	全体研修	富永
		29	金	研究公開	研究公開に向けてⅡ	全体研修	日高
		29	金	学力向上	標準学力検査 調査結果の分析と学力向上対策	全体研修	関屋
		29	金	進路指導	進路指導（校内推薦規定等）	全体研修	坂下
		1	月	保健指導	保健指導	全体研修	深町
		1	月	人権教育	人権の諸問題と指導について	全体研修	久永
	8	18	木	教育課程	教育課程編成についてⅡ	全体研修	富永
		18	木	研究公開	研究公開に向けてⅢ	全体研修	日高
		19	金	生徒指導	生徒指導 教育相談（講師招聘）	全体研修	酒井
		26	金	生徒指導	不登校対策について	全体研修	酒井
	26	金	教育課程	教育課程編成についてⅢ	全体研修	富永	
二 学 期	9	16	金	研究授業	研究授業③（講師招聘）	全体研修	
	10	3	月	研究授業	研究授業④（講師招聘）	全体研修	境
	10	17	月	教育課程	教育課程編成についてⅣ	全体研修	富永
	11	7	月	研究公開	研究公開に向けてⅣ	全体研修	日高

	11	14	月	研究公開	研究公開に向けてV(講師招聘)	全体研修	日高
	11	22	火	研究公開	研究公開(講師招聘)	全体研修	日高
	12	12	月	生徒指導	不登校対策について	全体研修	酒井
三	1	16	月	教育課程	平成24年度へむけて	全体研修	日高

## 8 職員研修の充実のための手立て

### (1) 分かる授業づくり共通実践5項目の設定

<b>分かる授業づくり共通実践5項目</b>	
<b>A</b>	<b>明確な学習目標や学習課題の提示</b> ・本時の学習内容を全生徒に共有化させるとともに、意欲化を図る。
<b>B</b>	<b>分かる板書</b> ・重要項目がはっきりと分かるように板書を工夫し、構造化を図る。
<b>C</b>	<b>山場の設定</b> ・発問や学習形態を工夫して、考えを練り上げ、深める場を設定する。
<b>D</b>	<b>教材・教具の工夫</b> ・学習内容に応じた教材・教具を準備し、意欲化・定着化を図る。
<b>E</b>	<b>確実なまとめ</b> ・本時の授業を振り返り、定着・意欲を促すような時間を設定する。

### (2) 授業の視点10項目の設定

<b>授業の視点10項目</b>	
A	1 導入を工夫しているか。(学習の共有化, 学習意欲の向上, 動機付け)
	2 学習目標を明示しているか。(何を学習するのか。深い教材研究)
B	3 分かる板書・ノート指導をしているか。(授業の流れ・重要項目明記)
	4 考えを練り上げるための効果的な発問をしているか。
C	5 学習内容とその課題解決に向けて授業形態を工夫しているか。
	6 授業の中に話し合い活動を取り入れているか。(言語活動の充実)
D	7 学習内容に応じた教材・教具の工夫をしているか。
E	8 確実な定着や家庭学習につながるまとめをしているか。(定着ラスト15分)
全	9 個に応じた指導や支援をしているか。
	10 丁寧で分かりやすい説明, 指示をしているか。

(3) 授業研究支援シートの活用

〈授業研究支援シート〉

- 授業日時 平成 年 月 日 ( ) 第 校時
- 授業場所 年 組
- 授業者 ○ ○ ○ ○ 教諭
- 参観者 全職員
- 職員研修 (授業研究) 15:30~ 図書室
- 研究テーマ

生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせる学習指導法の研究

○ 研究授業参観の視点

授業の視点12項目のうち、今回は主に下記の3つの視点で授業を参観し、チェックしましょう。「良かった、納得した」と思うものには○を、「検討を要する」と思うものには△をつけ、その理由も書いておきましょう。

視点 (チェック項目)	○or△	○△を付けた理由
4 考えを練り上げる山場の設定をしているか。		
6 丁寧で分かりやすい発問、説明、指示をしているか。		
8 学習意欲を高める教材・教具の工夫をしているか。		

○ その他の視点

- 1 導入を工夫しているか。(学習意欲の向上、動機付け)
- 2 学習目標を明示しているか。(何を学習するのか。深い教材研究)
- 3 分かる板書・ノート指導をしているか。(授業の流れ・重要項目明記)
- 5 確実な定着や家庭学習につながるまとめをしているか。(定着ラスト15分)
- 7 教科・課題の特色を生かして授業形態を工夫しているか。(個人・集団)
- 9 適切な学習の進め方や時間配分をしているか。(50分以内でまとめる)
- 10 表現力を高める発表の指導をしているか。(発表話型、丁寧な対応)
- 11 個に応じた指導や支援をしているか。(見届け、補充指導準備)
- 12 生徒は集中して積極的に臨み、内容を十分理解しているか。

メモ欄

## 9 成果と課題(22年度)

### (1) 成果

- ・ 年度当初に立てた研修計画に従い、ほぼ計画通りに研究授業を実施し、全体研修では全員参加による授業参観・授業研究を行うことができた。
- ・ 「分かる授業づくり共通実践4項目」及び「授業の視点12項目」を明確にしたことにより、授業改善への意識が高まった。
- ・ 「授業研究支援シート」の活用により、授業の見方が充実し、授業研究の協議の話題を絞り授業研究を深化させることができた。
- ・ 講師招聘により、客観的な指導を受け、授業力向上への意欲が高まった。

### (2) 課題

- ・ 全体研修以外の研究授業も積極的に参観し授業者に助言するような切磋琢磨する雰囲気作りをする。
- ・ 他教科の授業から得るものも多いことを周知し、授業力向上研修への参画意識を高める。
- ・ 教科部会の時間を明確に設定し、毎週確実に実施し、指導案検討や教材研究を教科全員で充実させる。